

○議長（小林哲雄）

再開いたします。

午前 11 時 20 分

○議長（小林哲雄）

引き続き、一般質問を行います。

10 番、小林秀樹議員、どうぞ。

○10 番（小林秀樹）

皆さんこんにちは、10 番、小林秀樹でございます。これには余り関係ないんですが、私、けさ来るときに、720 号線ですか。交通量がどのくらいあるかなというのをちょっと感じました。というのは、3 月 16 日に足柄紫水大橋が開通しますので、その開通したものと、ちょっと自分なりに比べたいなということで、数を数えてみました。吉田島駐在所から四ツ角のちょうど歩道まで、79 台の車の行きかいはありました。これが 3 月 16 日以降、どのように変化するかというのが、ちょっと興味あるところだと思います。当然減ると思っております。

さて、前置き、申しわけありません。私は二つの質問をさせていただきます。

一つは、開成から五輪選手を、実現に向けた取り組みはということでございます。これに対して質問させていただきます。

第五次総合計画の政策の一つに、健康を育み、町民が生き生きと暮らせる町、すばらしい響きと私は感じます。スポーツを通して、楽しみながら、健康増進、健康寿命の延伸、楽しんで長寿命化をする。一石二鳥のまさに効果であります。

競技スポーツの頂点にある五輪ですが、先ごろオリンピックがソチで行われました。間もなくパラリンピックも同じ場所で行われますが、日本選手団 40 歳過ぎの葛西選手から、それから、10 代の高梨選手、それから羽生選手、いずれもすばらしい結果を出していただきました。これはほんの一部の人ということであれば、それはそれまでなんですが、それを地球の人が楽しみ、喜ぶというのが、五輪の魅力ではないかなというふうに感じまして、今回、開成庁舎に町から五輪選手を出そうという横断幕が掲げられましたので、それについて私の質問をさせていただきたいと思います。

町内外を問わず、スポーツが盛んであります。個人や団体の楽しむスポーツから上位を狙う競技スポーツまで多くの町民が参加しています。

学校レベルでは監督・コーチの指導力とともに生徒のやる気が冬のグラウンドや体育館で熱気として飛び交っている。時には、熱心さが行き過ぎないかと心配することもありました。地元での好成績から、練習が足りない部分は自主的に専門施設で補い、選抜されれば一時、母校や友と離れて合同練習・合宿などを繰り返し、求める頂点を目指しています。若者は送り出してくれた母校や友だち、家庭や故郷のため、何よりも自らのためにと努力しています。その励みに周りも積極的に応援はしたくなるものでございます。

数あるスポーツ、多種多様な仕方、楽しみ方、考え方がある中で、苦しい練習で次へのステップが踏めた時の喜びはまた次の挑戦が始まるときでもあると思います。ス

スポーツを推進するまち開成として、個人や団体・チームの努力に対してどのような形でこたえておられるのか、またこれから対応されるのか。次の２点についてお伺いいたします。

①団体と個人、行政のスポーツ支援はどういう形がありますか。

②五輪の力強いスローガンに対し第五次総合計画の位置付けはどうなっておりますかということでございます。

二つの質問を出しておりますので、これは質問席で行いたいと思います。

○議長（小林哲雄）

町長。

○町長（府川裕一）

小林議員のご質問にお答えします。開成町から五輪選手、ぜひ出したいと思いますね。応援に行きたいです。東京に町バスを使って。ソチオリンピックを見ても、日本選手を応援するし、また、自分の町から出ていけば、その選手は特に応援したくなります。我々も開成町をもっと元気にしたいと思っていますけれども、やはりオリンピックに開成町から出てもらえれば、開成町はもっと元気になると思いますので、この辺応援していきたいと当然思っています。

それでは、お答えします。２０２０年の東京オリンピック誘致が決定し、町制施行６０周年を控えたこのタイミングにおいて、全ての町民がスポーツに親しみ、スポーツを楽しみ、育てる活動に参画する機会を確保するとともに、夢と感動を与えてくれるトップアスリート、開成町から輩出するための環境整備を積極的に進めていきたいと思っています。

まず初めに、団体と個人、行政のスポーツ支援はどういう形があるのかについてお答えします。町のスポーツ振興施策におきましては、町の体育振興を担う体育協会や、パークゴルフ協会、小学生を中心とした、地域で活動する、少年少女スポーツ団体への補助金による助成支援の実施を今はしております。あわせて神奈川県内の市町村対抗種目であるかながわ駅伝や、足柄上郡総合体育大会に参加する町の代表選手への出場経費の補助等を行っております。

また、側面的な支援として、スポーツ振興の功績をたたえ、関東大会以上の大会に出場した選手を対象に、毎年１月の賀詞交歓会、町の表彰式において、芸術文化スポーツ奨励賞を送っております。そのうちスポーツについて、今年度はアジア有数パラ競技大会、マレーシア２０１３について、金メダルを獲得した森一馬さんを初め、９名の若手の人たちの表彰を行いました。

過去において、平成２０年８月に開催された、第２８回全日本バレーボール小学生大会、開成ＶＳＡが出場した際、出場経費の一部助成や、応援団派遣、開成駅への横断幕設置、壮行会の開催等の支援を町を挙げて実施をいたしました。

今後は、町制施行６０周年を契機に、町のスポーツ振興をさらに進めていくための施策として、日本代表候補など、個人のトップアスリートを対象に、一定の強化選手に対する自己負担の軽減などを目的とした支援の制度化を図ります。また、全国レベ

ルの大会や、試合に出場する場合には、町主催の壮行会の開催や、応援PRを展開するなど、積極的な側面支援を行い、町内において、トップアスリート育成の支援体制の構築を図っていきたいと考えております。

続きまして、五輪の力強いスローガンに対し、第五次総合計画の位置付けについてお答えします。オリンピックに対する取り組みにつきましては、文部科学省によるスポーツ立国の実現を目指したスポーツ振興事業に、平成26年度より、2020年スポーツ戦略プランが新規に組み込まれました。25億2,400万円の予算が計上されております。戦略的スポーツ、国際貢献事業、2020ターゲットエイジ育成強化プロジェクトなど、オリンピック関連施策が国のレベルで進められており、今後も、国や県との連携のもと、情報発信等に努めていきたいと思っております。町では、第五次開成町総合計画において、スポーツ教室や、スポーツイベントを通じて、スポーツへの関心を高めていくことを掲げております。町のスポーツ振興策を積み重ねていくことによる町民全体のスポーツ水準の底上げをしていくことを並行して、県アスリートネットワーク総合型スポーツクラブを活用した、トップアスリートによる教室を定期的開催をし、レベルの高い知識や技術に触れる機会の提供によるトップアスリートの育成につなげていきたいと思っております。

2020年の東京オリンピック開催に向けた動きとして、新たに具体的な事業を展開する場合は、第五次開成町総合計画の実施計画に位置付けをしていきたいと考えております。

以上であります。よろしく申し上げます。

○議長（小林哲雄）

小林秀樹議員。

○10番（小林秀樹）

一つの支援として、団体補助金、それから、代表選手への経費補助、それから、個人、団体への側面支援、開成VSA出場時の支援ということで、さまざまな支援方法で町は今まで取り組んでこられました。非常にスポーツを振興する町として、積極的な支援ではないかと思えます。

ところで、この今までの四つの、一つは、臨時的な措置というふうな感じもするんですが、こういうものを制度化するというお考えはありますでしょうか。

○議長（小林哲雄）

自治活動応援課長。

○自治活動応援課長（岩本浩二）

議員の質問にお答えさせていただきます。制度化ということですが、来年度のうちに、個人への、先ほど町長が答弁させていただきましたとおり、個人のトップアスリートの方への支援ということで制度化を図っていきたいと考えてございます。

○議長（小林哲雄）

小林秀樹議員。

○10番（小林秀樹）

個人アスリートへの制度化というのは、大変評価すべきことだと思います。特にこのタイミングを利用した新設ということでは、ほかにこれに続く市町があるかどうか分かりませんが、開成町としては、独自の取り組みで評価したいと思います。

私の質問は、今まで団体補助金とか、代表選手への経費補助とか、あるいは個人、団体への側面支援と行ってきたので、それそのものを慣例的というか、ある意味では、一つは制度化というふうに言えるのかもしれませんが、これを何かの固定化というふうな意味での捉え方での質問なんです。

それでは、そういう趣旨で申し上げたんですが、次の質問に参りたいと思います。

個人へは、非常に前向きな、新設のお話がありました。団体への補助金ということでは、今、三つの体育協会、パークゴルフ、それから、少年少女スポーツ大会というふうに指定されましたけれども、これは固定化でしょうか。それも補助する支援の内容も固定化しているのでしょうか。それでこの三つに分ける理由は为什么呢。お伺いしたいと思います。

○議長（小林哲雄）

自治活動応援課長。

○自治活動応援課長（岩本浩二）

お答えします。固定化ということでございますけれども、町体育協会、町パークゴルフ協会、それと現在7団体ございます少年少女スポーツ団体におきましては、毎年、これまで同様に、固定化ということで、補助金として助成をさせていただいているという状況でございます。

以上です。

○議長（小林哲雄）

小林秀樹議員。

○10番（小林秀樹）

体育協会は、14のスポーツ部があるということで、この金額が、伺ったところ、他町に比べてちょっと低いんですね。これは一概に比較するということがなかなか難しいかもしれませんが、絶対額で比べると低いと。これだけのいろいろな行事とスポーツ大会、競技に参加されて、しかも体育協会は、二、三人の部から、二、三十人の部まで、非常に幅広いと。ですから、なかなか運営も難しくて、みんなが協力してやるということでは、非常に評価するところがあるんですね。そういうところで、団体への補助金というのは、ちょっと少ないのかなと思うんですが、今後、それを見直す、あるいは他町との比較という意味での平準化というか、優位性というか、それを保つような、何かお考えがありますでしょうか。

○議長（小林哲雄）

自治活動応援課長。

○自治活動応援課長（岩本浩二）

体育協会そのものへの助成金ということで、開成町は35万円ということでお支払いをさせていただいているわけですが、他市町上郡の1市4町と比較しますと、

そこの直接的な補助金の部分では少ないというようなことが言えるとは思いますが。ただ、各14部のユニホーム代ですとか、上郡総合体育大会への補助金、それとかながわ駅伝競走大会への補助金等、支出科目等が異なるというふうな状況もございまして、それらを全て合計した場合には、1市5町と比較しても、逆に金額的には大差がないと。一つだけ、松田町が220万円ということで突出して多いというような状況もございまして。それと一番1市5町でいうと、南足柄市が77万3,000円ということで一番低い状況にはございますが、その間で、中井町、大井町、山北町、開成町につきましては、おおむね110万円から140万円程度のところで、年度によって、消耗品等の関係で変化しておりますけれども、ほぼその4町については同等ということで認識をしております。

以上です。

○議長（小林哲雄）

小林秀樹議員。

○10番（小林秀樹）

具体的な金額を示していただいて、ある意味では安心しております。

それでは、60周年の来年度ですか、町制施行ですけれども、その辺にあわせての個人応援ということでは、支援ということでは、非常にこれだけでも立派な前進ではないかというふうに思います。

二つ目の質問で、スローガンに五次総との位置付けというのではどういうふうにその整合性というか、お考えがありますでしょうか、伺います。

○議長（小林哲雄）

自治活動応援課長。

○自治活動応援課長（岩本浩二）

総合計画の件につきまして、お答えをさせていただきます。現在、総合計画におきましては、町民全体の方にスポーツ振興に携わっていただいて、多くの方にスポーツに親しんでいただくというような観点からの位置付けをさせていただいております。個人へのトップアスリートの方へという位置付けにつきまして、先ほど申し上げたとおり、制度化をさせていただくというようなことを前提に、これからそういう方、対象の方がいらっしゃって、その制度を活用されるという状況におきましては、実施計画の中に状況に応じて位置付けをさせていくことで対応させていただければと考えてございます。

以上です。

○議長（小林哲雄）

小林秀樹議員。

○10番（小林秀樹）

この五次総との位置付けについても、非常に明確なご判断をされていますので、私としては非常にこれについても評価をしたいと思っております。つまり、町民全体の底上げをして、スポーツを振興させるんだということ。それから、トップレベルの知

識とか技能に触れるということも触れられておりますので、ぜひ、積極的に進めていただきたいと思います。

既に第五次総合計画が始まって、1年が過ぎようとしていますが、スポーツ関係でも、新たなスポーツの振興策が行われておりますので、ぜひ、この勢いで五輪に選手が出るように町民、行政、それから企業も含めて全体が注目、それから応援していきたいというふうに思いますので、よろしくお願いいたします。

一つ、先ほどもちょっと言いましたんですけれども、答弁の中にもありましたけれども、底辺の拡大を図る活動というのでは、具体的には、もう一度、どういうものなのかというのをご説明いただけますか。

○議長（小林哲雄）

自治活動応援課長。

○自治活動応援課長（岩本浩二）

底辺の拡大ということでございますが、スポーツ振興にかかわる施策等全てが底辺の底上げというような部分で、スポーツ振興ということで掲げてございます。

一つ、ご紹介させていただきたいのは、総合型スポーツクラブということで、スポーツになじみのない子どもさんですとか、町民の方全般の方をよりスポーツに向いていただくというような考え方の中で、幅広い世代がいつでも、どこでも、好きなときにというようなことで、平成25年度から設立準備委員会を立ち上げまして、各体協、スポーツ推進員のご協力により、委員さんの検討を進めてまいりました。この3月末に、総合型スポーツクラブということで、正式に設立をさせていただくというような運びとなりましたので、今後、底上げという部分を含めて、これまで競技スポーツに携わっていない方も、そういうものを通じて、より底上げを図っていきたいと考えてございます。よろしくお願いいたします。

○議長（小林哲雄）

小林秀樹議員。

○10番（小林秀樹）

スポーツを勧めるには、指導者というのが非常に重要になってくると思うのですが、指導者という見方では、どうでしょうか。

それともう一つ、町民の総ぐるみ運動としての位置付けがありますのですが、それについて具体的なことを示していただけたらと思います。

○議長（小林哲雄）

自治活動応援課長。

○自治活動応援課長（岩本浩二）

スポーツ指導者ということでございますが、平成23年度から新たな挑戦枠ということで、町でスポーツセミナーを立ち上げをさせていただいております。こちらにつきましては、指導者向けのセミナーということで、子どもさんをコーチされる方の知識ですとか、スポーツ選手に必要な問題解決能力の指導者に求められるもの等のテーマに基づきまして、指導者を対象として、これまで七つの講座を開催させていただい

ております。計3年間で行わせていただいておりますが、201名の方に受講いただいております。指導者の充実というようなことで、知識の習得というふうなことで、そういうもので指導者の充実を図っているというようなところでございます。

総ぐるみの運動というようなことでございますが、こちらにつきましては、来年度、チャレンジデー等を予定してございまして、町民総参加型の健康に対する取り組みというようなことを考えてございまして、5月28日に開催を予定しております。その時間、その日に、午前零時から午後9時までの間に、住民の方に15分以上、何らかの運動ですとか、そういう活動を行っていただく、参加率を競うというような内容になってございますが、そういうものを町民を挙げて、スポーツに親しんでいただく、健康になっていただくという観点から、そういうことについても取り組んでまいりたいと考えてございます。

以上です。

○議長（小林哲雄）

小林秀樹議員。

○10番（小林秀樹）

ぜひ、5月28日のチャレンジデーには、町民が100%とはいわずに、多くの町民が15分以上に運動ができるように、これから各場面でPRできるように進めていただきたいと思います。

それでは、二つ目の質問に参ります。二つ目は、町民のシンボルとなるような町舎（庁舎）建設を、ということですが、この庁舎は、私としては、町舎というふうなことで表示をさせていただいております。

現庁舎は働き続けて45年目、引退間近となりましたが、いまや遅しの声が聞こえてくるような気がします。2市8町の中でも最古参クラスであります。スタート当時は他に先んじた庁舎としてまた、町内建設ブームのはしりとして開成の時代をつくってきたと思っております。当然のことですけれども、多くの町民に利用され、また働く職員の生活を支える場所として使用されています。その間に建物は、古木となって数々の手当てで今まで頑張ってきております。

近年では環境・エネルギー政策の推進の一つとして緑のカーテンで飾るなど手厚く保護されてきました。

新たな時代背景での庁舎建設検討が始まったようだが、町舎と職員が一体となり、第五次総合計画以降のかいせいまちづくりに大きく寄与するためには、ハードとソフト両面での十分な考慮が必須であると思います。そこで町舎建設の理念、検討手法、建設目標・計画の中で以下の事柄が生かされたいと考えますが、そのことについて伺います。

①防災総合庁舎としての機能もなすためには、用地取得、現状諸施設の再配置や整備及び十分な周囲への環境配慮など必要だと考えます。

②展望軽食堂を備え、憩える場所で職員も率先利用できるようになりたいと考えます。

③新たな建物は親しみを込めて「町舎<sup>まちしや</sup>」と呼称したい、この町舎は、後でご説明いたします。

○議長（小林哲雄）

町長。

○町長（府川裕一）

それでは小林議員のご質問にお答えします。役場庁舎整備事業は、第五次総合計画の実施計画に平成30年度竣工と掲げております。役場庁舎は町政運営の拠点という意味で、町のシンボリックな施設でありますから、多くの町民の皆様の声を反映し、建設することが大事と考えております。建設計画につきましては、平成26年度には、仮称ですが、開成町庁舎整備基本構想策定委員会の設置を予定しております。これまでは職員の中だけで検討しておりましたが、この委員会には、学識経験者、議会や、町内各種団体から推薦いただいた方、一般町民で公募に応募してくださった方にも参画をしていただくと考えております。この委員会での検討をもとに、基本構想、基本計画を策定していきたいと考えております。その後、平成27年度には、基本設計、28年度には実施設計、29年度、30年度に建設工事を行いまして、竣工を目指していきたいと考えております。

私としては、町民本位の観点から皆さんにとって、親しみやすく、利用しやすいものとなり、また、役場業務が効率的に行われる庁舎となることを願っております。

また、総合計画では、老朽化が著しいことから、災害への対応力を強化するため、耐震性能を確保した、災害応急活動の拠点施設整備が必要としておりますので、委員会にはこれを念頭に置いた議論をしていただきたいと思いますし、このほかにも、そもそもどういった理念のもとに建設するのか、新庁舎に必要な機能は何か、周辺に配慮した建物や、配置、さらに言えば、議場の形式なども含めて検討していただく必要があります。

ご質問にありました、防災総合庁舎として機能させるための諸課題や、展望食堂の設置などは、構想策定委員会で検討していただく問題となります。委員会では、さまざまなアイデアを出し合って検討していただきたいと思いますと考えておりますので、その際に、町長の発言が前提となってしまいますと、偏った議論になる恐れがあります。したがって、現段階で私が町長という立場で、具体的なことを述べることは控えさせていただいたほうがよろしいかと思います。ご理解を願いたいと思います。

3番目の質問、新庁舎は、庁舎の「庁」の字を「町」という字を当てて呼称することとしたいと言われましたが、せっかく建設される庁舎なので、町民の皆様には、できるだけ親しみやすい存在にしていくことについては、私も同様に思っております。しかし、この呼称につきましても、策定委員会で検討していただいたほうがよろしいかと思いますので、ご理解をお願いいたします。

以上です。

○議長（小林哲雄）

小林秀樹議員。

○10番（小林秀樹）

この庁舎建設は、第五次総合計画にあるものですが、その第1章には、町民主体の自治と協働を進める町、それから、第8章に、効率的な自治体経営を進める町。この両翼にあるこの章は、庁舎建設に限っては、両方は一体であればいいかと、一体であってもよいのではないかと私は考えました。

そこで整理、ポイントを絞るために、検討しようということで伺いたいと思います。町内で特別プロジェクトチームが、1年半前にまとめられましたもの、それから、それ以降、庁舎内の部課長クラスで検討されたものがあるかと思うんですが、その中で絞って当初のプロジェクトチームでのまとめられたこと、全体は、私の見た限りでは、よくまとまっていると感じているんですが、その中で現状の課題と整備の基本的な考え方について、端的にお答えいただきたいと思います。

○議長（小林哲雄）

財務課長。

○財務課長（加藤順一）

お話の中にありました、まず、現状の課題でございますが、プロジェクトチーム、庁舎とおっしゃいましたが、開成町役場内での職員の検討でございます。その中での課題でございますが、まず、1点挙げられていますのが、庁舎の機能が分散している、この役場と町民センターと分散している。スペースが絶対的に不足していると、防災拠点としての問題も掲げております。この庁舎自体が大規模な地震が起きても直ちに倒壊する場面ではないんですけれども、そのまま業務は継続できないといった部分。それから、バリアフリーの対応がされていないこと。それから、全体的な設備老朽化の問題、情報管理の問題等が課題として掲げているところでございます。

それから、整備の必要性に関しましては、ただいまの課題が解決されなきゃいけないというのが前提条件の中で必要であるといったものでございます。

それから、これが庁舎の検討プロジェクトの話でございますが、今年度25年度につきましても、庁舎の検討委員会というものは設けました。これは委員長は私でございますけれども、以下、各課の主幹クラスの者が集まっての検討会でございます。この検討内容につきましては、三役、部長会議に報告したという状況でございます。今年度の検討は、先ほども言いましたプロジェクトチームの報告を踏まえまして、将来、これを基本構想とまとめていくためには、こういった内容で再整理しなきゃいけないのかと、そういった部分の検討にとどまっているところでございます。

以上です。

○議長（小林哲雄）

小林秀樹議員。

○10番（小林秀樹）

課題についてはよくわかりました。もう一つ、大変重要なことで、整備の基本的な考え方、その中に庁舎の役割、あるいは機能というものがありますのですが、これについての先ほど並みのご答弁をいただきたいと思います。

○議長（小林哲雄）

財務課長。

○財務課長（加藤順一）

プロジェクトチームでの報告書の記載内容の、改めてのご報告でございますが、庁舎の役割として必要なもの、安全・安心の拠点となる庁舎、これがまず1点掲げられてございます。それから、町民に開かれた庁舎、地球環境に優しい庁舎、町民に親しまれる庁舎、機能性、効率性の高い庁舎といった部分が掲げられているところでございます。

それから、機能面でございますけれども、防災機能、窓口機能、執務機能、議会機能、それから町民機能、施設管理機能、こういった部分が、施設の機能としては必要なものというふうにまとめられているところでございます。

○議長（小林哲雄）

小林秀樹議員。

○10番（小林秀樹）

まさにこの役割ということを見ても、また、機能ということを見ても、特に役割のほうは、利用される町民、それから、サービスする行政、この両方が満足するような役割ということで、ここで示されていると思います。

私もまさにそういうことを今後の庁舎建設にはぜひ必要かなと思うわけであります。町民本位の観点と、役場機能の効率化を願っているということでございます。

それでは、その中には災害応援活動、応急活動の拠点施設整備というものがあります。町長の答弁の中では、願っているとか、必要と期待しているというふうに、ちょっとはっきりされないんですよね。もっときっぱりと言葉を示していただけないでしょうか。町長就任から2年で、この総合計画ができて、それから、今、既に3年になるとして、ですから、そういう意味では、総合計画にもうたっているんですから、庁舎建設に関しての中身についても、はっきりと示されたほうが、町民、あるいは職員皆さんも安心するんじゃないかなと思うんですが、どうでしょうか。

○議長（小林哲雄）

行政推進部長。

○行政推進部長（石井 護）

小林議員のご質問にお答えいたします。先ほど町長答弁の中では、まさに言われるとおり、願っているとかという部分がありますけれども、これは答弁の前段でも言っておりますように、26年度につきましては、構想の計画の策定委員会、これは外部の方、専門の方ですとか、あるいは町民の公募によって、何人か希望される方があれば、そういう方を入れて、策定委員会の中で決めていくと。町長の思いとしては、それは町長個人としては、それであろうかと思っておりますけれども、システムとして策定委員会という中で行っていくんで、町長の思いとしては、そこの委員会の意思というものを十分に尊重したいという意味での願っているという表現になっているかと思っておりますので、ご理解いただきたいと思います。

○議長（小林哲雄）

町長。

○町長（府川裕一）

言い方がちょっと遠回し的な感じもしないでもないんですけども、基本的には、町民の皆さん主役という中で、町長の基本的な思いとすれば、現状で役場庁舎を見て、この機能面、役場に入って、狭さ、町民の皆さんもそうですけれど、働く職員の場所的にも、誰が見ても明らかに不便さ、バリアフリーも含めて、障害者が来ても、通路すら狭く、また上にもまた上がっていけない。こういう現状、また耐震性の問題も、以前、議会の皆様にもお話しさせていただいていると思いますけれども、防災の拠点としての安全性も、今や危ない状況にあるというのも、特に3.11の契機に、防災拠点というのはすごく重要なところだというのは、町民の皆様も多分認識はしていただいているとは思いますが、やはりただ老朽化したから、庁舎を建てるということだけでも、今の時代において、役場庁舎というのはなかなか難しい建設については難しい問題もありますので、できるだけ町民の皆さんから、やはり役場建設、建て直しが必要なんだというきちんとした合意の中で、その中身を検討していただいて、また、町民の皆さんに一番使ってもらいやすい庁舎をつくっていくというのが私の思いであって、その中身については、やはり外部の皆様を初め、町民の皆さんのご意見を聞きながらたたき台をつくっていただければ、私としてはありがたいかなと思っています。

○議長（小林哲雄）

小林秀樹議員。

○10番（小林秀樹）

私は、町民本位、あるいは働く職員本位とか、そういう言葉も使っておるのですが、まさに両方が満足する。それから、外部から来た方も、おっ、これは開成庁舎だな、というぐらいの驚きがあるぐらいの一つ内容であってほしいと思うんですよね。

例えば、私は軽食堂という表現を使っているんですが、展望食堂ですね。展望食堂だけでは、これはどこでもあるんですよね。そこに例えば、マーケットみたいな、マルシェみたいなことの、売店を設けるとか、あるいは開成の町民コンビニとか、そういうものもあってもいいのかなと。開成町は、なかなか今まで地味で、あじさいと阿波おどり、それから、パークゴルフ、やはりこれでは物足りないんですね。やはり季節的なものもあるし、年間を通じた、町民がそれから外部の者が、それから何よりもそこに働く人が日々満足するようなところであってほしい。町民からすれば、五次総合計画の中にもあるんですけども、地域のコミュニティというのがありますが、地域のコミュニティも当然のことながら、町の中心となる庁舎のコミュニティというのも非常に大事だと思います。もちろんその言葉も中には入っていると認識しておりますが、ぜひ、行政の庁舎が皆さんが集える場所になるというふうな気持ちをぜひ表現できたらと思います。

そこで私は、庁舎のことを、通常、官公庁の庁舎なんですけれども、開成町の町、

町舎<sup>まちしゃ</sup>というふうな呼び名はどうかと考えております。読みで「まちしゃ」、それから漢字書きで開成町の「町舎<sup>まちしゃ</sup>」、あるいはこれを町舎（ちょうしゃ）ととってもいいと思います。そしてさらにこれを親しみやすくするためには、あじさいの町舎<sup>まちしゃ</sup>というふうなことで愛称をつけたらどうかと、それにはやはり建物そのものも、あじさいの町舎<sup>まちしゃ</sup>というふうに表示できるような町舎にしたいと思う。そうすると、その町の非常にシンボリックな庁舎、それから機能性の高い庁舎が実現できるのではないかなと思うんですが、この町舎<sup>まちしゃ</sup>という呼称、それから、あじさいの町舎<sup>まちしゃ</sup>という愛称についての、もし積極的なご答弁がありましたら、お願いいたします。

○議長（小林哲雄）

財務課長。

○財務課長（加藤順一）

先ほどプロジェクトチームの報告で、議員のご質問に答えまして、庁舎の役割としてどんなものがあるかと、その中には項目的な言葉だけしか申し上げませんでしたけれども、その中に町民に親しまれる庁舎という役割が必要だよと、それでそれには町民に親しまれ、町の顔として愛される庁舎という部分が必要だということを報告の中でさせてございます。

それで先ほどからお話しさせていただいております、来年度、26年度に設置します策定委員会の中で、この課題等につきまして、現実的にはその課題の軽重をつけるといった部分を現実的な話としてはあろうかと思うんですけれども、そういった部分に一つ一つ答えていって、基本構想、基本計画という形にしていくんだと思います。

それで今、ご質問の町舎につきまして、呼称のお話でございますけれども、それにつきましても、町長の答弁にありましており、そういった皆さんのご意見を反映した形でないと、それが最後に町民の中に浸透していくものにはならないんじゃないかと考えているところでございます。ぜひ、策定委員会の中での検討にさせていただければと思います。

また、策定委員会の以降のお話になろうかと思いますが、その28年度、先ほど町長の答弁の中に、基本設計をその年度につくりたいと申し上げたところでございます。基本設計までできますと、全体の庁舎のイメージを皆さんにお示しできるようになりますので、それを見ていただいて、ではこの建物はこういうふうと呼称するのがふさわしいんじゃないかとか、そういった時期までそういった検討をちょっと保留にさせていただいて、そのときに皆さんのご意見の中で決めていくのが、その先にいって、町民にどれだけ親しまれる庁舎になるかといった部分にかかわってくるんじゃないかと思っておりますので、そういうふうにご理解いただければと思います。

以上です。

すみません。年度を間違えたようです。基本設計につきましては、平成27年度でございます。失礼いたしました。

○議長（小林哲雄）

小林秀樹議員。

○10番（小林秀樹）

全てについて、まだ、オブラートというか、見通せない状態のように受け取ります。  
とはいっても、やはり町長としての思いとか、これだけは譲れないというのがあるのかと思います。その二つだけを聞かせていただけますか。

○議長（小林哲雄）

町長。

○町長（府川裕一）

3. 11の関係がありますので、まず最大は防災拠点というものは必要だと思っています。町民サービスの最大限のためには、窓口。役場に入って、一番元気になってもらえるように、来てもらって、よかったという思いが、窓口が入り口に設置をするという、この二つが私は一番基本的に庁舎建設の中で必要だと思っています。

以上です。

○議長（小林哲雄）

小林秀樹議員。

○10番（小林秀樹）

大変無難な答えだったと思いますが、具体的にお答えいただきまして、その面については安心いたしました。

これから、庁舎建設で既に積立も始まっております。この庁舎建設にはどのくらいのお金がかかるかわかりません。といいますのも、ちょうど建設のときに、東京五輪がぶつかっています。そうすると、非常に工事費というか、建設費が高騰になる可能性もあります。五輪そのものは、神奈川県というか、開成町では、時期的も含めて、ほとんど効果ないんですね。

ただ、五輪選手が輩出されるということになれば、それはそれの大きな効果があると思うんですが、ただ、ほかの面での、通常で東京五輪が開催されるという意味では、経済効果というのは余り期待できない。しかも、そのときに庁舎建設が高いお金で行われるということが予測されると、非常にその辺で心配があります。

しかし、計画上決まっているものを進めるというのが基本だと思いますので、どうか最終的にはみんなが使いやすく、それから、安心できる庁舎を建設いただきたいというふうに思っております。

私の一つの願いとしては、ぜひあじさい町舎という言葉が残れば、開成町にふさわしい庁舎というイメージも、実質もなるのではないかなと考えております。

いろいろ要望等発言いただきましたが、ぜひ新たな年度での策定委員会に、今までの検討されたことを無駄なく進められて、よりよい庁舎になるよう、それから、皆さんが喜ばれる、本当に開成町っていい町だな、住み続けたい町だなということになげてくださいたいと考えます。

これで私の質問を終わらせていただきます。

○議長（小林哲雄）

暫時休憩といたします。再開を13時30分といたします。

午後 1 2 時 1 7 分

○議長（小林哲雄）

再開いたします。

午後 1 時 3 0 分